

2. 野菜等の栄養成分表示に関する消費者調査

(1) 調査方法と実施概要

1) 調査方法と調査時期

消費者調査は、全国 47 都道府県を対象地域にそれぞれに地域から年代別、性別が均等になるよう対象者を選定した。調査時期は、2008 年 11 月から 12 月にかけて実施し、調査方法は、調査対象に調査票を郵送し記入後に返信封筒により回収する方法により実施し、2,649 人から回答を得、これを集計対象数とした。

2) 調査対象者の属性

回答数 2,649 人の属性について性別で見ると、男性は 1,281 人 (48.4%)、女性 1,368 人 (51.6%) であり、また、年代別では、20 代 516 人 (19.5%)、30 代 526 人 (19.9%)、40 代 526 人 (19.9%)、50 代 545 人 (20.6%)、60 代以上 536 人 (20.2%) である。

(2) 調査結果の要約

1) 栄養成分表示ラベルについて購入時における参考程度 (Q1、SQ1.1)

野菜等のパッケージに栄養成分表示のラベルが貼り付けてある場合に、購入する際どの程度参考とするのかについて調査合計では、「参考とする」と「ある程度参考とする」をあわせると 67.3%と過半数を占め、「参考にしない」は 21.8%である。(Q1)

そこで、「参考とする」、「ある程度参考とする」と回答した調査対象者に参考とする理由について調査したところでは、「野菜等に含まれる栄養分を知ることができるから」が 74.3%と最も多く、次いで「不足しがちな栄養分を補いたい時の参考」63.3%、「栄養バランスのとれた献立を考える時の参考」41.8%の順である。(SQ1.1)

これを年代別にみると、「栄養分を知ることができるから」と「栄養バランスのとれた献立を考える時の参考」では、年代が上がるごとに回答割合も高まり、とくに 60 代以上で最も高く、高年齢ほど参考にしていることが注目される。

2) 栄養成分表示の POP 表示について購入時における参考程度 (Q2、SQ2.1)

野菜等の販売コーナーに栄養成分表示のある POP 表示がされていた場合に、購入する際にどの程度参考とするのかについて調査合計では、「参考とする」(13.1%)と「ある程度参考とする」(57.2%)をあわせると 70.3%と高く、「参考にしない」は 18.0%である。(Q2)

そこで、「参考とする」、「ある程度参考とする」と回答した調査対象者に参考とする理由について調査した結果は、先に見た栄養成分表示のラベル調査結果と同様に、「栄養分を知ることができるから」が 72.2%と最も多く、次いで「不足しがちな栄養分を補いた

い時の参考」60.3%、「栄養バランスのとれた献立を考える時の参考」42.7%の順である。
(SQ2.1)

これを年代別にみると、「栄養分を知ることができるから」と「栄養バランスのとれた献立を考える時の参考になる」との理由が60代以上で回答割合が最も高い。とくに、これを男女別に年代別でみると、男性では60代以上で「栄養分を知ることができるから」が81.5%、「栄養バランスのとれた献立を考える時の参考になる」が48.1%とそれぞれ最も高くなっている。一方、女性では60代以上で「栄養バランスのとれた献立を考える時の参考になる」との理由が他の年代に比べて回答割合が61.5%と最も高くなっていることが注目される。

3) 栄養成分表示を参考にした購入意志決定 (Q3)

野菜等のパッケージに栄養成分表示(ラベルやPOP)が貼付されていた場合に、購入する際に表示を参考に購入するののかについて調査合計では、「表示を参考にして購入したい」(12.2%)、「表示をある程度参考にして購入したい」(61.0%)をあわせると73.2%と高く、「参考にして購入したいと思わない」は12.6%にすぎない。これを性別にみても、年代別にみても、回答割合に大きな変化はみられない。

4) 通常野菜と栄養成分に特徴ある野菜の同一価格での購入意志 (Q4)

「普通の野菜等」と「栄養成分に特徴のある野菜等」が両方販売されていて、両方同じ価格の場合にどちらを購入するののかについては、「栄養成分に特徴ある野菜等を購入」は65.6%と過半数を占め、「特にこだわらない」13.8%、「料理によって使い分けて購入」12.6%、「普通の野菜等を購入」3.4%の順である。

5) 栄養成分に特徴ある野菜等が通常野菜より価格が高い場合での購入意志 (SQ4.1)

そこで、先の調査で「普通の野菜等」と「栄養成分に特徴のある野菜等」が両方販売されていて、両方同じ価格の場合にどちらを購入するののか(Q4)について「栄養成分に特徴ある野菜等を購入」と回答した調査対象者1,738人に対して、さらに「普通の野菜等」と「栄養成分に特徴のある野菜等」が両方販売されていて、「栄養成分に特徴のある野菜等」の方が価格が高い場合にどちらを購入するののかについては、「普通の野菜等を購入」は49.4%、一方「少し高くても特徴ある野菜等を購入」は44.5%とほぼ同じ回答割合であった。

そこで年代別にみると、「普通の野菜等を購入」では20代と30代の比較的若い世代で高く、一方、「少し高くても特徴ある野菜等を購入」では、60代以上の高齢者で高い回答割合であった。

6) 購入時に参考となる情報 (Q5)

店頭で販売されている野菜等を購入する上で、どのような情報があれば購入するときに参考となると考えるかについて、調査合計では(複数回答)、「産地」74.0%、「安全性」69.5%、「栽培方法(有機・無農薬)」50.8%、「健康への効果」49.7%、「栄養成分の含有量」48.4%、「保存方法」41.9%、「調理法」40.4%、「おいしい野菜の見分け方」39.4%等の順であった。これを性別と年代別にみても、以下のとおりである。

①「産地」、「安全性」、および「栽培方法(有機・無農薬)」の安全・安心に関わる情報については、年齢が高くなるに連れて回答割合が高まり、とくに60代以上で最も高い。

②次に「健康への効果」の情報は20代の若い世代で高く、とくに若い女性で回答割合が高い。

③さらに、「保存方法」、「調理法」、および「おいしい野菜の見分け方」の情報については、20代と30代で回答割合が高く、とくに20代と30代の比較的若い女性において回答割合が高いことが特徴である。